

地域課題探究  
「復興と再エネの未来へ」  
～浜通りへ行こう！～  
報 告

令和3年11月20日（土）

福島県立郡山東高等学校

○ 【あすびと福島】での『再エネ・プログラム』 9:30~12:00

フィールドワーク「沿岸部の風力・太陽光発電施設の見学」

ワークショップ「私たちにできることを考える」

(車窓見学 【福島ロボットテストフィールド・福島水素エネルギー研究フィールド】)

(「道の駅なみえ」にて昼食) 12:30~13:10

○ 【震災遺構「請戸小学校」】見学 13:30~14:00

○ 【伝承館】での『高校生研修会』 14:20~16:00

東日本大震災・原子力災害伝承館「展示見学」14:20~14:50

双葉町産業交流センター小会議室「語り部講話」15:00~15:40

振り返りワークショップ 15:40~16:00



<参加者>

◎生徒15名

1年生6名

2年生9名

◎引率2名

熊谷 明彦

千葉 崇



# 【あすびと 福島】

フィールドワーク  
「南相馬市の風力・  
太陽光発電施設見学」  
ワークショップ  
「私たちにできること」

# フィールドワーク「南相馬の風力・太陽光発電施設の見学」



半谷栄寿さん  
(代表理事)の想い

私は、大震災前の2010年6月まで東京電力の執行役員であり、原子力事故について心から申し訳なく思っています。一方、福島県南相馬市の出身でもあり、風評被害に悩む南相馬市に支援物資を届けるボランティア活動を震災直後の3月19日から5月にかけて6回にわたって行いました。その際、物資を届けた先で出会った菓子店を営む女性から、「地元の子どもたちのためになる仕組みを創ってほしい」と託されました。私自身も、物流が回復すれば物資支援の役割は終わることから、その後は復興のための継続的な仕組みが不可欠とっていました。福島の復興を担う人材を育成するという私の”志”は、こうして生まれました。福島が前のように、いや前にも増して輝くには、まだまだ長い時間がかかります。そして、この挑戦には、多くの力が必要になります。私たちの”志”は、この土地の若者ととともに走りながら、〈福島型のアントレプレナー〉を育ててゆくこと。課題解決のために、自ら考え、自ら行動できる。仲間をつくり、事業を起こすことができる。そんな若者が次々と生まれ結果を出していける日を、私たちは思い描きます。自立した彼らは周囲の憧憬の対象となり、あとに続く子どもたちも増えていく。この”憧れの連鎖”こそ、福島の未来を拓く原動力になるのだと思うのです。人をつくることが、明日をつくる道。“あすびと福島”は、その挑戦を続けます。（「あすびと福島」HPより）

太陽光パネルの枚数は約22万枚で、南相馬市から北に並べていくと、最後の1枚が青森市に到達するとのこと。

出力は59.9MWで、一般家庭約2万世帯の使用電力量を賄っている。曇りの日でも約50%、雨の日でも10%~20%発電を継続しているとのこと。発電量が最も多い季節は、夏ではなく、実は春であるとの豆知識も教わった。



今回ご同行いただいた小林さん（現在【あすびと福島】さんに出向中）の勤務先である（株）住友商事が『南相馬市再生可能エネルギー推進ビジョン』に賛同し出資

すご〜い音に圧倒。

風力発電の設備はドイツ製。ブレードは直径90mにもなる。自動で風向きを読み取る機能があり、発電の不安定さを最大限克服。風速3m以上の風があれば常に稼働するが、25m以上の場合は安全性の面から自動停止。この1基で2,350kW。4基合わせると9,400kwになり約400世帯の電力を賄っている。





をさ大は、現在、す学  
明しので、あで学  
説く現学現っ【あ  
でた大。あしん  
線は。攻。ろ学  
目さ実生。専こ休島  
者下、年をとを福  
若しては、4学う学  
哲学思大びんでい

動きだも  
突き何だも  
をのはか。回  
さんのように、今  
したものでしょうか、  
たかたのす、私  
しかする、私  
私たちが感じたもの  
と同じだったのかも  
しれません。



右上は、浜通り一帯に植えられている防風林。防波林の役目も果たすという。人が住めなくなった沿岸部の土地を政府が買い取って植樹しているとのこと。。

下記の風力発電施設の向こう側に見えるのは、原町火力発電所。ここから2010年より木質バイオマスの海外混焼を始めたこと。

従来、石炭火力は煙突よりばい煙を噴出し公害をとめる「硫酸・窒素酸化物・低減を」の防止対策などにより環境負荷の低減を図っている。



# ワークショップ「私たちにできることを考える」



「自分と向き合いながら、自分の考えを言葉にしてみよう」ととても熱いその語りに心が揺り動かされました。

- 1 風力・太陽光発電の見学を通じて感じたことは？
- 2 自然のエネルギーの良いところは？
- 3 自然のエネルギーが脅威になるのはどんな時？
- 4 自然の脅威から私たちの社会や地球を守るにはどうしたらいい？



今から30年後の世界を思い浮かべ、  
「時間軸」を意識して考えてみよう！



いよいよ発表です。

「ワクワク」したい。  
しかし、その前には  
「ハラハラ」がある。  
「ハラハラ」が「ワクワク」につながる。



「私にとって自然は常に脅威だ」

「自然と人間との間にある一定の距離を置くことが必要だ」

「この地球を人間中心で考えていた」

「自然を支配しようとしていた」

「日頃からの防災の意識を大切だ」



# 再エネの不安定さを補う水素エネルギーの可能性



# 再エネでつくった電力で水を分解し水素をつくる



先ほどつくった水素で自動車を走らせます。本当に走るか？



走った！走った！本当に走った。



クヌギの木は萌芽力が強く、樹高は15～20mになるそうです。  
また、ここに来た時には、きっと大きく成長しているはず。



最後にサフライズがありました。  
クヌギの木の植樹です。

「郡山東高の森」が茂っている頃には、福島もきっと…



【あすびと福島】で感じたこと

1年 男子

私の再生可能エネルギーに対する認識は、「はたしてこれで本当に未来が広がるのか？」というものでありましたが、水素というものは、たしかに資源の面では石油よりは未来がある。しかし、水素は石油以上に管理が難しいことは、火を見るより明らかである。漏れた水素に火がつけば、たちまちドカンである。この短所をどのように改善していくか、今後に期待したい。

## 【あすびと福島】で感じたこと

1年 女子

バスの中から広大な土地の太陽光発電を見てとても驚いた。また、風車の真下まで行った時の大きさに驚いた。11年前のここには、普通に家があったと聞いて信じられなかった。あすびとでは、「自分に向き合う」ということが心に残った。私は、人前で自分の意見を発表することが苦手なのでよい経験になった。時間軸に注目して災害を防ぐことも大事だが、災害を防止することが重要だということが分かった。脱炭素社会について、もっと詳しく知りたい。私たちに出来ることを、少しずつ、未来のためにやっいていこうと思う。

【あすびと福島】で感じたこと

1年 女子

脱炭素社会という言葉は知っていたが、今の現象を知らなかったのので、約20万枚のソーラーパネルによる太陽光発電や、高さが130mもある風力発電の設備を見たとき、自分が知らなかっただけで、ここまで進んでいるのだなあと感じた。

【あすびと福島】で感じたこと

1年 女子

あすびと福島では、自然の良さを学んだ。自然の力を最大限に活用でき風力・太陽光発電は、地球や人々にとって優しいものだ分かった。また、今のことだけを考えるのではなく、未来についても頭に入れて考えることが重要だと知った。さらに、自然が脅威になった時に、どう対策するかも重要だと知った。

水素は次世代のエネルギーだが、水素は果たして本当に安全なのか。

【あすびと福島】で感じたこと

1年 女子

元々、家があったが、今となっては何もない場所に、太陽光発電や風力発電所をつくったことで、少し視点を変えると、災害によって得られるものもあるのだと思い、ピンチはチャンスだと感じました。もし、何もない場所をそのままにしておいたなら、ただの荒地になっていただろう。災害から立ち直ろうとする「復興の力」「人の力」は強いと思いました。

【あすびと福島】で感じたこと

1年 女子

風車が風の向きを感知して、1番効率の良い発電をすることに、とても驚きました。また、風速の10倍くらいの速さで回っていることも知りました。さらに、太陽光発電は雨でも発電することを初めて知りました。福島が再エネに、こんなにも力を入れていることは知らなかったもので、本当に感心しました。私たちは、防災をするだけでなく、災害が起きるのを防いでいかなければならないということも、しっかり知ることができました。

## 【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

原発後の福島の再生可能エネルギーを利用した発電について学びました。太陽光発電と風力発電の施設を見学して、福島が復興に向けて動いているということを実際に感じる事ができました。また、2012年から2021年までの間で、南相馬市では再生可能エネルギーの割合が90%にまで増えていて、その取り組みが進んでいるということに驚きました。

水素エネルギーについて、世界最大規模の水素研究フィールドが福島にあることを知り、目標を実現させるための取り組みが県全体にも広がると良いと思いました。

【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

たくさんの太陽光ソーラーパネルや、4基の風力発電を見たり、話を聞いたりして、再生可能エネルギーについて再度考えることができたと思う。もうすでに南相馬市では、94%を再生可能エネルギーで電力を賄うことができていて、「本当に実現できる」のだと知ることができた。また、残りの6%を賄うために水素エネルギーの開発や研究も施設で進められていて、とても勉強になった。

【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

私は、これまで、大規模な太陽光発電や風力発電を見たことがありませんでしたが、今日、近くで見て、肌で感じてみて、もっと知りたいと感じました。風力発電では、自然を最大限利用するために、観測計を設置して調節しているということを聞いて、本当にすごいと感じました。この他にも、書ききれないほど、再生可能エネルギーについて知ることができて良かったです。

## 【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

まず、南相馬の風車や莫大なソーラーパネルを実際に見て、再エネの最先端に福島県はなっているのだなあと感じました。津波ですべてがなくなってしまった場所に、未来への希望となる施設が建てられていることの喜びと、その反面、震災以前住んでいた地元の人々は、故郷の姿が変わってしまったことに対して、どんな思いなのかと考えさせられました。ワークショップでは、「時間軸」を考えることが大事だと分かりました。気候変動、地球温暖化を防止することで、災害を少しでも減らすという考えは、自分には身近に感じませんでした。水素自動車や再エネの利用目標などを知り、CO2削減に取り組んでいる社会の状況を実際に感じて、自分にできることから始めようと思いました。

【あすびと福島】で感じたこと

2年 男子

現在における再生可能エネルギーの普及状況や発電率を知ることができた。思っていたよりも高い割合で、多くの世帯の電力をカバーしていて驚いた。

植林を初めて体験でき、とても楽しかった。もし、もう一度、津波が来てもこの森が命を救うかもしれないと考え、すごく誇らしく思えた。

水素自動車にも乗せてもらえて、貴重な体験ができた。

## 【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

太陽光発電と風力発電を間近で見学して、そのスケールの大きさに驚いた。効率よく発電するための様々な工夫がされていることが分かった。また、自然エネルギーの脅威から私たちの社会や地球を守るには、防災は勿論のこと、私たち自身が脱炭素社会を目指さなければならないことが分かった。南相馬市や福島県はすでに再生可能エネルギーの利用100%を目標にして動いることが素晴らしいことだと感じた。自分にも小さなことではあるけど、できることはたくさんあるので、行動に移していきたい。

【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

太陽光パネルが約20万枚あることに驚きました。このパネルで2万世帯分の電気を供給することができるのって、正直すごいなあと感じました。また、風力もかなりの電気を生み出すことができるのを初めて知りました。そして、ワークショップでは、今、水素が注目されているということも教えてもらいました。水素の様々な利点を聞くことができて良かったです。常に、防災のことを考えつつ、地球温暖化、気候変動を防止する策を生み出せるように、これからも自然エネルギーについて考えたいです。あと、自動草刈り機がかっこ良かったです。

【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

実際に、太陽光発電や風力発電がおこなわれているその様子を見て、その場所でどのくらい役立つことができるのか、今の自然エネルギーの状況を知ることができました。また、お話を聞いて、現在のことだけを考えるのではなく、20年、30年後の未来のことも考え、防災だけではなく新しいエネルギーの発展により原子力発電が必要なくなる時代になってほしいと感じました。エネルギーについてよく考える機会はあまりないので、貴重な経験をすることができ、とても有意義な時間でした。

【あすびと福島】で感じたこと

2年 女子

あらためて自然エネルギーを振り返る良い機会でした。言葉は知っていても、本当の意味を知らなかった「脱炭素社会」、最近、よく耳にしていた「水素エネルギー」などをより深く知ることができました。あんなに小さなボトルの中には、ペットボトル1000本分の水素が入っていたり、水素の力だけで動く自動車には、すごく近未来を感じました。

**青く、広く、そして、穏やかな太平洋。でも、この海が表情を変えて、人間の脅威になることもあるということを、私たちは学びました。**



浪江町の復興のシンボルとして  
令和3年3月にグランドオープンした

## 「道の駅なみえ」

住民同士をつなぐ交流施設や飲食店などを備えるとともに、被災経験や復興の現状、町の魅力を発信する場にもなっていました。



浜通りでは、いたるところで「自動草刈機ロボット」が活躍していました。さすがは、「イノベーション・コースト」

# 【震災遺構「請戸小学校」】



請戸地区を襲った津波の高さは、およそ5～15m。請戸小は海岸から約300メートルに位置し、津波は1階部分を全て押し流し、2階の床にまで達した。校内にいた児童82人は、西に1キロほどの高台にある大平山に避難し、全員無事だった。ただ、請戸地区では127人が死亡し、27人が行方不明となった。

津波到達時刻の午後3時37分で止まった時計、はがれ落ちた天井や壁、泥まみれのパソコン。校舎1階はできる限り、当時のままの状態で作成された。

この高さまで津波が押し寄せてきた。





津波の威力のもの凄さに、もう、ただただ驚くばかりでした。





まるで時計が止まり続けているかのように、あの日のままでした。



「とにかく高い所へ！」  
「大平山へ」



## 震災当日は卒業式だった



請戸小学校の体育館も「電源立地交付金」施設だった。

「電源立地交付金」とは、原子力発電所など発電施設のある都道府県や市町村の公共事業などに交付される補助金のこと。



周りにはもはや何も  
ない。あるのは、瓦礫  
の集積所だけ。



かつては、たしかにここに集落があったんです。





2階の教室からはすぐそこに海が見えるのです。



【請戸小学校】で感じたこと

1年 男子

請戸小学校は、津波の被害について、辺りに広がる平原以上に、多くを物語っていた。海からの津波で窓や机を押し流し、引き波では、外開きの扉を内側に開くほどの力を持っていたことに、私は恐怖を覚えた。あの体育館の扉の前に立った時、私の心には、ただ、驚きと恐れしかなかった。

【請戸小学校】で感じたこと

1年 女子

想像していたよりも被害が大きくて、ショックだった。津波の威力は恐ろしいなと感じた。生徒と教師は、全員無事に避難することができ、びっくりした。私だったらパニックになってしまうと思う。当時のままの姿を見て、苦しかった。

【請戸小学校】で感じたこと

1年 女子

自分の目で初めて津波の被害を目の当たりにして、津波がどれほど恐ろしいものなのかを知ることができた。普段、生活しているなかで、これは「壊れないだろう」と思っていたような非常扉などが水圧で変形しているのを見たとき、思わず、「えっ?」と言ってしまった。テレビ番組での特集で請戸小学校を少し見たことがあったが、実際に見るのとは、やはり「違うな」と強く感じた。

【請戸小学校】で感じたこと

1年 女子

津波の被害は、テレビで見たことがあったが、その被害を生で見るのは初めてで、津波の強さ、恐怖、容赦ないところを感じた。壁がはがれ、蛍光灯は落ち、床は上がり、何の部屋だったのかもわからない。ぐちゃぐちゃ、ぼろぼろ。私が丘で津波を見たら、心が折れてしまい、何も感じられなくなってしまうだろう。

【請戸小学校】で感じたこと

1年 女子

外見は、なんだか寂しそうな雰囲気のある学校で、中に入ってみると、残酷的な風景が広がっていて驚きました。見る前までは、津波といっても重いものが少し移動するくらいだと思っていましたが、実際には、壁が全体的にはがれ、扉は床に倒れ、印刷室のほとんどは、泥と押し流されたもので埋まっており、津波の恐ろしさを身にしみて感じました。そして、請戸小の先生や生徒たちは行動力があって勇敢だったと思いました。

【請戸小学校】で感じたこと

1年 女子

今回、この「浜通りに行こう!」に参加を決意した目的は、請戸小学校が見たかったからです。想像の何倍も被害がひどく、見た時は、言葉が出ず、ただただ苦しかったです。天井からぶら下がっている蛍光灯、むき出しになった壁、床が盛り上がった体育館…。この津波の威力がもし子どもたちを襲っていたらと考えると、恐怖で頭がいっぱいになりました。震災の被害を直に感じる事ができた場所でした。

【請戸小学校】で感じたこと

2年 女子

教室の様子が当時のまま残されていて、壁がほとんどボロボロにはがされている状態でした。教室の1つに天井に紙や冊子が挟まっている教室があり、津波が天井まで来ていたこと物語っていました。体育館のドアが曲がっていたり、教室の壁が倒れていたりと、給食室の機械が部屋の奥の方に押し込まれていたり、通常では動くことのありえないものが動かされていて、津波の威力のすごさが伝わり、津波の怖さを思い知りました。

【請戸小学校】で感じたこと

1年 女子

本当に、震災当時のまま残っていて驚いた。1階の教室は、壁がはがれていたり、天井に津波で流された書類が挟まっていたり、と衝撃的なものばかりだった。体育館は「卒業証書授与式」と書かれたボードや、泥がたまっただまのボール、盛りがってしまった床が、そのまま展示されていた。一番、心に残ったのは、展望台についている時計で、津波が到達した時間で止まっているのがとても印象的だった。黒板に書かれていたものが、消えつつも、まだ、残っていたのがやはり印象的だった。

【請戸小学校】で感じたこと

2年 女子

私は、はじめて震災遺構を見学しました。実際に見学してみると、今の姿からは、昔の姿が想像できないような様子になっていて、目を疑うほどでした。天井も床も傾いており、10年前までは普通の学校だったということが信じられないほどでした。物も若干残っており、リアルさがありとても怖かったです。

## 【請戸小学校】で感じたこと

## 2年 女子

私は、震災遺構などを訪れたことは一度もなく、今回初めて請戸小学校を見学し、想像以上の津波の恐ろしさを感じました。止まったままの時計や、さびれたオルガンなどを見ると、本当にあの日のまま時間が止まっているように感じました。地震が起きてすぐに山へ避難したと知り、私が小学生だったら、絶対怖くて逃げられないと思いました。また、災害時の助け合いと、すぐに避難することの大切さをこの震災遺構を訪れて本当にわかりました。また、小学校の周りには何もなく、トラックだけが走っている風景に、10年という月日がたっても復興に進んでいないことを気づかされました。

【請戸小学校】で感じたこと

2年 男子

震災当時の様子を今でも知ることができるのは、とても貴重で、参考になりました。一方で、あまりにもひどい被害の様子から、震災があったとは分かっているけれども、どこか現実味を帯びないようにも感じた。このように保存ができているのは、実際にそこに被害者が確実にいないと分かっているからであり、そういった意味では、避難誘導を行い最終確認をしてくれた教頭先生のおかげでもあった。

【請戸小学校】で感じたこと

2年 女子

震災当時のまま残されている校舎を見て、津波の悲惨さを肌で感じた。体育館は、卒業式の準備がされていた最中だったようで、日常が一瞬で奪い去られてしまったことが目に見えてとても悲しくなった。また、実際の児童の避難状況が描かれた絵本がパネルで展示されていて、当時の状況がよく分かった。全員が無事に非難することができたのは、本当にすごいことだと思った。地震や津波の恐ろしさを身に染みて感じることができ、また、防災について考えさせられる貴重な場所だと思った。

【請戸小学校】で感じたこと

2年 女子

この場所で、本当に震災が起こったんだというのがひしひしと感じられました。実際に被災した現場を見るのは初めてだったので、結構、心にくるものがありました。1回が当時のままになっているので、その場所だけ時間が止まっているような感覚でした。時計も同じ時刻で止まっていて、2階で黒板と一緒に見た時、涙がこみ上げてきました。この感覚を忘れずに、私たちの次の世代までこの出来事を語り継いでいきたいと思います。

【請戸小学校】で感じたこと

2年 女子

当時の様子がそのまま残っている場所はなかなか見ることができないので、ショックを受けましたが、実際に起こったこととして受け入れて、人に伝えたいと思いました。特に、瓦礫がそのままに残されている様子からは、学校だと思えないのに、時計やストーブなどがあって、確かに学校だったと思うと、つらい気持ちになりました。実際に見ると、資料で見た時より、ずっと当時の状況が分かりました。

【請戸小学校】で感じたこと

2年 女子

当時の津波の強さを体に直接的に感じました。一階部分の壊滅さや、津波が到達した時刻で止まっている時計を見ると、どれだけ津波の威力が強かったのかが分かりました。パネルに書いてあった一つ一つのエピソードは、どれも心に辛さや苦しさが伝わってくるものばかりで目が潤みました。

# 【伝承館(東日本大震災・原子力災害伝承館)】



東日本大震災と津波に伴う原子力災害を後世に伝えることを目的として昨年2020年9月に開館。

- 災害の始まりから現在までの復興の状況を知るための「展示見学」
- 災害を実体験した方々の生の声を聞く「語り部講話」
- 振り返りワークショップ

# 展示見学



津波や原子炉建屋の爆発のシーンは、目をふさぎたくなります。



## 「語り部」講話

講師は、昨年3月まで高校生だった渡邊舞乃さんです。3年間に及ぶ避難生活、地域貢献を志した高校での活動、伝承館に働き、語り部になろうと決心した思いなど、等身大の貴重なお話を聴くことができました。

最後の渡邊さんから、と私たちに向けてメッセージを頂きました。



- ① 出合いを大切に。
- ② 災害には常に備えておく。
- ③ 当たり前を当たり前と思わない。



# 「振り返り」ワークショップ。

今日1日の体験を通して  
感じたことを、お互いに  
“言葉”にしてみました。





## 【伝承館】で感じたこと

1年 男子

正直、1か月前にも来館したので大きな発見はないと考えていた。しかしながら、資料を読み深めれば読み深めるほどに、被害の大きさを知ることができた。ただ、学校など大きな団体に対して解説員の方を置けば、被害についてもより深く知ることができるだろうと感じた。

## 【伝承館】で感じたこと

1年 女子

今回で3回目だったが、毎回行ってみての感じ方が違った。語り部では、渡邊さんと年齢が近いこともあり、親近感を持って聞くことができた。「現在進行形の災害」という言葉が心に残った。渡邊さんは、自分の経験を財産だと言って、伝承館で語り伝えるという選択をされてすごいなと思った。当たり前を当たり前だと思わず、いつ何かが起こるかわからない災害について、常に備えておくことがとても大切だと改めて分かった。私も当時の記憶を書き写そうと思った。

## 【伝承館】で感じたこと

1年 女子

私たちと年齢も近い方による語りだった。地震が起こる前、何をしていたのか私も覚えていない。地震が起きた瞬間から鮮明に覚えている。私は避難をしなくて大丈夫だったが、避難を余儀なくされた人は数多くいる。当たり前前に過ごしているから今は、明日にはないかもしれない。1日1日を後悔のないように過ごしていきたいし、感謝したい。また、どんな時でも、人と人とのつながりは大切だと感じた。

【伝承館】で感じたこと

1年 女子

当たり前を当たり前と思わない。 出会いを大切に  
にする。 災害には常に備えておく。

震災を経験したのは大きな財産で、その財産ど  
のようにするか。

震災は現在進行形の災害。

私も復興に関わりたい。

## 【伝承館】で感じたこと

1年 女子

東日本大震災で大きな地震があったこと以外の記憶がなかった私にとって、語り部講話は、とても貴重な経験となった。私はいつも何となく日常を過ごしてきたが、これからは、語り部の方がおっしゃられた3つのことに気を付けて、日々の日常を過ごしたい。①出会いを大切にする。②災害には常に備えておく。③当たり前を当たり前と思わない。

## 【伝承館】で感じたこと

1年 女子

実際に、浜からすごく近い場所に住んでいた方からお話を聞いて良かったです。語り部の方のお母さんのように、「こうなった時にために…」と動くのってすごく大変なんだと思いました。私も震災の時、名古屋に2週間ぐらい避難しました。そこでの生活は、そこまで辛くなかった記憶があるので、周りの人とつながっていることって大事にしていかなければならないと改めて思いました。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 女子

震災当時の流されてきたものや、地震が起きた時間、津波が来た時間で止まった時計を見て、津波のすさまじさを知りました。また、当時の避難した人々の暮らしの大変さ、当時は、自分は小さくて理解できなかったニュース、被災の方の救助や原発の問題に最前線で立ち向かった人々の苦労と努力が当時の写真と資料で知ることができ、震災による影響がどれほどのものであったかを、より深く学ぶことができた。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 女子

5分間のムービーシアターから始まり、震災ってなぜこんなに被害が大きくなったのか、原子力発電所でどうして爆発が起こってしまったのか、改めて知ることができた。当時の新聞や資料がそのまま展示されていて、こんな状況だったのかなと想像ができた。語り部講話では、私たちよりも年上でちゃんと記憶が残っている方から、当時の避難生活や引越し、転校の話を聞けて、当時のことを少しでも知ることができて良かった。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 女子

語り部講話では、実際の体験談を聞くことができました。当時の様子から、その後の生活などを詳しく聞くことができました。避難生活をしたという話から、転校を繰り返して不安が絶えなかったという話まで、幅広く詳しく聞くことができました。私が体験していないことについて聞いたので勉強になりました。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 女子

展示見学では、当時のニュース映像などを見ることができて、自分が全く覚えていない頃の様子を知ることができました。語り部講話では、語り部さんが、実際に経験した話を通して、当たり前前に感謝しなければならないと感じました。明日にも災害が起きて、友達と一生会えなくなったり、故郷に戻れなくなってしまうかもしれないと思うと、日常のありがたみを感じました。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 男子

津波の被害だけでなく、原発事故の状況も展示されており、係の方に教えてもらったおかげで事の重大さを改めて知ることができた。語り部講話では、被災者のその後の生活を知ることができた。若い人が語り部だったから感じていることが似ていた。当時の記憶はほとんどないし、事故が起こる前の福島の様子も知らないから、資料からしかイメージできないけれど、少しずつではあるが復興が進んでいることを知ることができた。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 女子

展示や映像を見て、東日本大震災の重大さや原子力災害はどのように起こり、どのような影響を及ぼしたのかなど、他にもたくさんを知ることができた。もう過ぎ去ってしまったことと受け流すのではなく、後世にしっかりと伝えていくことが大切だと改めて感じた。また、語り部講話を聴いて、自分が今こうして何気ない日常を送れていることがどれだけ幸せか感じることもできた。自分の経験を話してたくさんの人に伝えている語り部という仕事は素晴らしいものだと思った。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 女子

東日本大震災によって起こったこと、当時の状況、遺留品などを伝承館で見ました。自分も経験していることなのに、知らなかったことがたくさんあったので、知ることができて良かったです。また、語り部さんの話を聞いて、「私たちより年上の方は、ここまで覚えているんだ。大変だったなあ。」と感じました。私も語り部さんのように、自分たちが体験したことを他の人に伝えていきたいなと思いました。

## 【伝承館】で感じたこと

2年 女子

当時使われていた様々なものが展示されていて、被災者だけでなく、警察側からも見ることができ、立体的に当時の様子がわかりました。また、原子力発電がきた当初はとても歓迎されていたことが悲しいと思いました。また、自分と年齢があまり離れていない語り部さんの話を聞いて、被災した子どもの気持ちが分かり、周りの人のやさしさが大切なのだと感じました。初めて知ることが沢山ありました。

【伝承館】で感じたこと

2年 常恒 美里

震災当時の写真や使われていたものが展示されていたものを見て、その時の状況の悲惨さが伝わってきました。語り部さんの話では、私たちと2歳しか離れていない女性の方のお話を聞き、郡山に住んでいた私とは大違いの体験を聞き、福島の中でも被害の差があることを身に染みて感じた。屋上から見た海、中間貯蔵施設を見て、早く復興してほしいと感じた。

【全体を通して】で感じたこと

1年 男子

全体として、浜通りにける震災被害について、今まで以上に知ることができた。

参加動機

先生に誘われたから



訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

1年 女子

楽しんで学ぶことができた。行ってよかった。つらい現実を目をそむけたくなくなってしまうが、この出来事を少しでも多くの人に伝えていく必要があると思う。人と人とのつながり、人の温かさについて知ることができた。私は、今、何不自由なく生活してるが、当たり前だと思わず、感謝していこうと思う。今回、参加して、いろいろな人の意見を聞くことができ、たくさんの収穫ができた日だった。もし、次もこのような機会があるのならば、自分のためにも積極的に参加したいと思う。

### 参加動機

震災当時の映像をテレビなどを通して見る機会が多いですが、その度に心が痛くなって目をふさぎたくなってしまう。しかし、この経験はつらくても次の世代へ少しでも多くの人に語り伝えていく必要があると思った。また、浮力・太陽光発電についてもしっかり学びたいと思ったからです。



訪れたい場所： 請戸小

## 【全体を通して】で感じたこと

1年 女子

震災・復興に関して知っているつもりでしたが、津波に関しては知らないこともあり、震災遺構は大切に保存していくべきものと思った。震災からの復興は、まだまだ途中だが、風化してしまっている部分もある。震災では、多くの人が亡くなってしまった。一周の出来事だった。今を生きれていることに感謝して生きていかなければならないと感じた。また、自分の意見を発表することに少し自信がついたので、これを活かして生活していきたいと思った。

### 参加動機

← 当時は幼稚園生だったこともあり、その被害の実態を詳しくは理解できていないから知りたいと思った。また、このような研修活動に参加したことがなかったので、参加して自分を成長させたいと思ったから。

訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

1年 女子

参加動機

10月の学習旅行で行ったときにもっと知りたいと思ったから。また、将来の自分に役に立つと思ったから。

自然の良いところ、怖いところ、2つ学ぶことができた探究活動だった。防災も大事だが、自然災害を起こさない、今だけでなく、未来のことを考えることが重要だと学んだ。また、震災をどう伝えるか、どう残していくかが大切だと思った。復興に何かしらの形で関わりたい。

訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

1年 女子

知らなかったことを知ることができ、知識として得るものも沢山あった。特に、協力する力、人の力って強いと感じた。自然の力に打ち勝つことができないから対策をしよう、そんなことが起こったのか語っていきこう、という行動がすごいと思った。そして何よりも、津波の恐ろしさを改めて実感し、自然にはやっぱり勝てないなあと思いました。災害はいつ起こってもおかしくない。自分もそれに巻き込まれないとは限らない。だから、1日1日に価値があり、大事に過ごすべきだと痛感した。

参加動機

震災に興味があり、学習旅行ではあまり見ることができなかったもので、ゆっくり見たいと思った。

訪れたい場所： 伝承館

【全体を通して】で感じたこと

1年 女子

参加動機

10月の学習旅行で行ったときに伝承館の展示をもう1度見たいと思った。また、請戸小学校の内部を見学したいと思ったから。

私が震災を経験したのは5歳の時で、正直言って震災の被害を受けている実感ありませんでした。でも今回、色々な場所に行って、震災の被害をものすごく感じたし、未来に向けて復興を頑張っているんだなあと直接感じる事ができました。でも、何も無いところで重機だけが動き続けるのを見たら、やっぱりまだまだなんだと悲しくなる場面がたくさんありました。この貴重な経験を機に、震災を知らない子どもたちへ伝え続けられたらいいなと思いました。

訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

2年 女子

今まで震災や被災地についてのニュースを見ていて知った気になっていましたが、実際に請戸小の津波の被害の様子や伝承館で見た当時の話など、知らなかったことばかりではなかったですが、テレビを通して見るのと、実際に足を運んでみるのとは全然違って見えました。また、帰還困難区域の状況を実際に見たのは初めてでした。南相馬市あんどのように住宅が撤去されておらず、夕方に通った時の静けさが異様で、バリケードも相まって怖く感じました。あすびと福島で聞いたように、福島の未来に向けて動いていることがある半面、まだ復興が進んでいないところもあることを改めて感じました。

参加動機

将来、公務員を目指しており、県内の被災地のことや復興について学びたいと思ったから。

訪れたい場所： あすびと福島

【全体を通して】で感じたこと

2年 女子

今日この活動に参加していなかったら、記憶はあまりない震災や復興のことを間違えた情報で伝えていたのかもしれないと思った。実際に残っているものを見たり、関連した事業で動いている人たちの話を聞いて、向き合うことができた気がした。見学したところ以外でバスから見た帰還困難区域の風景を見て、変わっているところもあれば、当時から手つかずのままと思われるところもあって、印象深かった。今回、たくさんのことを浜通りで学べて、これから震災などを知らない人に伝えていこうと思った。

参加動機

私は地域経済について興味があり、震災は経験しても当時のことを詳しくは覚えていないため、この企画を機に、震災の被害や復興のことについて学び、自分で何ができるか考えたかったから。

訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

2年 女子

私は今まで、このようなことを考えることがなかったなので、あらためて向き合う時間を取れて良かったです。自然は、再生可能エネルギーによって、人間の生活を助ける一面がある一方で、台風などの被害をもたらす場合もあるということも知ることができて良かったです。震災を本当の意味で、直に体験していないため、こういう機会で考えることができて、本当に勉強になりました。

参加動機

福島復興について、もっと深く知りたいと思ったから。

訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

2年 女子

参加動機

個人での探究活動のテーマ(「福島県は復興できているのか?」)や自分の進路に関わっていて、学べることが多い企画だと思ったから。



今回の活動に参加して本当に良かったです。自分の探究活動だけでは分からなかった今の本当の現状と向き合うことができました。あすびとで植樹をしたことは、私も未来に少し貢献できたのかなと思います。そんなふうに、復興と未来のことを他人事ではなく、自分事として考えて、これからの行動に移せたらと思います。

訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

2年 男子

津波が及んだエリアは、今は住むことができず、防波のための対策や再生可能エネルギーの設備が所々にあるだけで、10年たった今でも傷跡が見とれ、悲しくなった。話で聞くのと、実際に見るのとでは、感じるものが変わってきて、行動の大切さを多少なりとも知ることができて良かった。昼に人がいても、夕方になるにつれ柵が閉められ、灯りもなくなっている様子が、福島の実態(?)を表している気がした。

参加動機

将来、行政関係の仕事に就きたいと考えており、そのためにこうした地域の諸課題に目を向け、向き合っていくことが大切だと思ったから。

訪れたい場所： 請戸小

## 【全体を通して】で感じたこと

2年 女子

実際に浜通りに行ってみて、今まで同じ県にいて震災を経験していながらも感じられなかった津波の恐ろしさや、原発事故の重大さを感じることができた。私たちは、自ら震災について学び、後世に伝えていかなければならない。そうすることで、東日本大震災で得た教訓が活かされ、決して無駄にはならないと思う。そして、自然災害が増えないように地球温暖化を防がなければならない。今回、参加して、自分ではなかなか行かないような場所に行くことができて、震災のことを振り返ったり、再エネについて考えることができ、とても貴重な体験になった。

### 参加動機

震災から10年がたった今、被災地の現状を自分の目で確かめたいと思ったから。

訪れたい場所： 請戸小

【全体を通して】で感じたこと

2年 女子

再エネに関しても、東日本大震災に関しても、今まで知らなかったことを知ることができたので、この活動に参加してよかったと思いました。私は、人前で話すのが苦手なので、発表する、と言われて結構ドキドキしていました。頭では、こういう風に話すこと決めていたのに、いざ話すとなると、上手く話せませんでした。けれど、前よりは話せるようになったし、この活動に参加するという決断をした私は、成長しているんだなあと思いました！東日本大震災について、まだまだ知りたいと思ったので、今後も調べていきたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

参加動機

高校時代の活動を充実させようと思ったから。また、震災後の浜通りの復興について興味があるため。

訪れたい場所： 請戸小

## 【全体を通して】で感じたこと

## 2年 女子

実際に、復興の様子やエネルギーの進化しているところを見て、メディアや資料からは感じ取れない空気感を知ることができ、福島の実況と、向かう未来について考える機会を得ることができ、とてもよい経験になりました。特に、請戸小学校の震災の日から時間が止まっているところが印象に残りました。今までは、近いけれども遠く感じていたことが、他人事ではなく、すぐ目の前に現在も続いていることとして感じられ、復興についてのイメージや捉え方が、自分の中で大きく変わりました。自分にできることを探して行動していきたいと思いました。

### 参加動機

自分の目で現在の状況を知りたいと考えたから。また、浜通りについて詳しく知り、将来の選択肢を広げたいと思ったから。

訪れたい場所： 請戸小

## 【全体を通して】で感じたこと

## 2年 女子

福島の今を知ることができた良い機会でした。なかなか目にすることのできない風車を間近で見ることができたり、自分の意見を周りに伝えたり、大変貴重な体験をしました。震災前は、この場所に家が建っていたのか、ここまで津波が押し寄せてきたのかなど、現地に直接行かないと分からないようなことも目で直接見ることができて良かったです。最後のワークショップで、「今日、学んだことを漢字1字で表す」という場面で、「環」と表したように、自然環境、人とのつながりは、環っているということが感じられた良い1日でした。

### 参加動機

テレビのニュースで伝承館が開館1周年を迎えたという情報を耳にしたとき、行ってみたいと思ったから。

訪れたい場所： 伝承館

# 夕暮れ時の太平洋をバックに



語り部の渡邊さんの言葉にもありましたが、  
震災と原子力災害はまだ現在進行形です。

今回の探究活動に参加した私たちは、  
伝えていかなければなりません。  
そして、動きださなければなりません。  
それぞれのやり方で。